

様式 2

平成 30 年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

学校名 静岡県立藤枝西高等学校

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
 II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
 III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
 IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
 V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

1 実践テーマ	【 V 】
2 実施対象者	本校 1、2 年生 404 人
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (保健体育) 行事名 () ② その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	パラスポーツを体験し、その競技を知ることによって、パラリンピックへの興味・関心を高める。 パラスポーツを知ることによって、障害者スポーツへの理解を高め、ボランティア精神を育む。
5 取組内容	体育の授業を使い、ブラインドサッカーとシットイングバレーボールの体験を行った。1 α、2 αはシットイングバレーボール、1 β、2 βはブラインドサッカーを行った。各集団とも2時間（55 分授業）行った。2月 13 日（水）と2月 18 日（月）の2日間にわたって取り組んだ。 集団の概要は以下のとおり 1 β：男子 35 人・女子 46 人 計 81 人 1 α：男子 56 人・女子 65 人 計 121 人 2 α：男子 50 人、女子 68 人 計 118 人 2 β：男子 29 人、女子 55 人 計 84 人 授業展開 ブラインドサッカー 2月 13 日 (1) 授業の趣旨説明 (2) 映像を見せて、ブラインドサッカーについて説明 (3) 準備運動、補強運動、ウォーミングアップ (4) サッカーボールでドリブル練習 (5) 目隠しをして動く（仲間に誘導してもらいながら） (6) ブラインドサッカーボールを用いてドリブル（目隠しをして） 2月 18 日 (1) 準備運動、補強運動、ウォーミングアップ (2) サッカーボールでドリブル練習 (3) 目隠しをして動く（仲間に誘導してもらいながら） (4) ゲーム（2 分間）（4 対 4（一人はゴールキーパー））

シッティングバレーボール

2月13日

(1)授業の趣旨説明

(2)映像を見せて、シッティングバレーボールについて説明

(3)準備運動、補強運動、ウォーミングアップ

(4)おしりをついたまま動く

(5)パス練習（立った状態、座った状態）

(6)ゲーム

2月18日

(1)準備運動、補強運動、ウォーミングアップ

(2)おしりをついたまま動く

(3)パス練習（座った状態）

(4)ゲーム

6 主な成果

外部から講師を呼ばず、本校の教員の指導で行った。生徒の取り組む態度はおおむね良好で、どちらの競技も楽しんでいる様子であった。普段の生活の中で見たり、体験したりすることのないスポーツだったので、「障害者のスポーツ」というよりは新しいスポーツに取り組んでいる様子だった。

生徒からは、「目が見えないとボールの位置はもちろん敵も、味方もわからず怖かった。声をかけたもらっても上手に動けず難しかった」（ブラインドサッカー）「おしりをつけたまま移動することが、とても大変だった。手足を上手に使うことができなかった」等の感想が寄せられた。

また、「障害者の大変さがわかった。他のパラリンピック種目も調べてみようと思った」などパラスポーツに興味関心を持たすことができたと思う。



※ 上段2枚ドリブル練習、下段2枚試合の様子（ブラインドサッカー）



※ 上段：（左）おしりを床に付けて動く練習、（右）座ったままパス練習
下段：試合の様子

7実践において工夫した点
（事業の特色）

多くの人数に指導したので、チームティーチングを用いて行った。実際のコートの大きさではなく、ブラインドサッカーはバスケットコート半面の大きさ、シッティングバレーボールはバトミントンコートを目安にして行った。チームの人数もサッカーは少なめ、シッティングバレーボールは多めの人数で行った。バレーボールはラリーが続きやすいように、通常のバレーボールのほかにバルーンバレーボールやソフトバレーボールなども使用した。

8主な課題等

今回はボールやアイマスク等を購入し、できるだけ学校の施設用具を工夫して行った。ブラインドサッカーでは生徒がどれくらい動けるか、どのように動くか予想が難しく、コートの大きさの設定や人数等を改善していく必要がある。シッティングバレーボールはラリーを続けさせるために、バルーンバレーボールなど様々なボールを用意して取り組んだ。通常のバレーボールよりもラリーが続いたので良かったが、今後、人数も含めて、勝敗を決するところまでもっていけると良いと思う。どちら種目も外部から専門家等を招いて取り組んでもよいと思う。

9来年度以降の実施予定

来年度以降は未定であるが、継続して取り組みたいと思う。